

ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-13-1/3)

目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。

成 果

1. 敦煌莫高窟壁画

- 1-1. 現地調査：2013（平成25）年8月31日～9月8日。莫高窟第285窟4壁と天井部について携帯型蛍光X線分析計、顕微鏡、分光光度計を用いた分析調査及び環境調査を実施した。
- 1-2. 敦煌研究院研究員の来日研修：2013（平成25）年9月22日～10月12日の日程で保護研究所程博研究員を招聘し、技術研修を実施した。
- 1-3. 報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院共同の2013年度成果報告書を編集し、発行した。
- 1-4. シンポジウムと専門家会議開催：2014（平成26）年2月19日、第285窟に関する研究調査に関してシンポジウムを開き、翌20日は壁画研究に携わる他機関の研究者と情報交換と専門的討論を行った。このシンポジウムのために2月18日～22日の日程で、敦煌研究院研究員1名を招聘した。

2. 陝西墳墓壁画

- 2-1. 現地調査：2013（平成25）年8月27日～31日。陝西省延安市周辺で発掘途中の壁画墓（金時代）2基を視察し、発掘現場における光学調査に関する方法を検討した。
- 2-2. 現地調査：2013（平成25）年10月19日～26日。曲江芸術博物館が開催した壁画芸術及び保護修復技術に関する国際学会議に参加し、壁画発掘現場における記録保存に関する研究の成果を発表した。
- 2-3. 現地調査：2014（平成26）年2月23日～25日。陝西省考古研究院で壁画墓発掘とその保存修復の状況について視察するとともに、今後の共同研究について討議を行った。

3. タジキスタン国立古代博物館所蔵の壁画断片の保存修復

- 3-1. 国内作業：壁画の保存修復に関する新たな処置方法の検討を行った。得られた成果を実際に適用するとともに学会や論文にて発表した。
- 3-2. 現地調査：2013（平成25）年9月18日～10月15日。15次ミッションを派遣し、タジキスタン国立古代博物館においてフルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復作業を実施した。

4. エルミタージュ美術館との協力体制構築のための調査

- 4-1. 現地調査：2014（平成26）年2月3日～8日。エルミタージュ美術館の調査を行い、これまでの事業で協力関係にある専門家と意見交換および今後の協力体制の構築にむけた打ち合わせを行った。

刊行物

- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2013』東京文化財研究所・敦煌研究院 14.3

研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、藤澤明（文化遺産国際協力センター）、津村宏臣、高林弘実、渡邊真樹子、杉原朱美（以上、客員研究員）